

Evaluation of the association between sleep apnea and polyunsaturated fatty acids profiles in patients after percutaneous coronary intervention

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中林, 圭介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032094

主論文の要旨

Evaluation of the association between sleep apnea and polyunsaturated fatty acids profiles in patients after percutaneous coronary intervention
(経皮的冠動脈形成術後患者の睡眠時無呼吸と多価不飽和脂肪酸プロファイルとの相関)

東京女子医科大学 循環器内科学教室
(指導：萩原 誠久教授) ㊦
中林 圭介

Heart and Vessels. Published in 2017 JUNE 19.

Doi: 10.1007/s00380-017-1010-7.

【要 旨】目的：睡眠時無呼吸(SA)は心血管疾患(CVD)の危険因子である。一方で、エイコサペンタエン酸(eicosapentaenoic acid: EPA)を含むn-3多価不飽和脂肪酸(polyunsaturated fatty acid: PUFA)のレベルや、EPAとアラキドン酸(arachidonic acid: AA)の比もCVDと関連がある。本研究の目的は、CVD症例においてPUFAプロファイルとSA合併頻度が関連するか検討することである。

方法：2013年10月から2015年4月に経皮的冠動脈形成術(percutaneous coronary intervention: PCI)を受け、夜間簡易オキシメトリでSAのスクリーニングを行った連続274症例を解析した。睡眠中の1時間に基線より4%以上経皮酸素飽和度が低下する回数(4% oxygen desaturation index: 4% ODI)が5以上のものをSA合併と定義し、SA群と非SA群でPUFAを含む臨床背景を比較した。結果：酸素もしくはEPA投与例を除く243症例で、134例(55.1%)がSA合併であった。SA群でEPA/AA比は有意に低く(0.33 ± 0.23 vs. 0.44 ± 0.35 , $p < 0.01$)、更にEPA及びEPA/AA比は4% ODIと有意な逆相関を示した($r = -0.15$, $p = 0.028$; $r = -0.16$, $p = 0.019$)。さらに、ロジスティック回帰分析を用いた多変量解析でEPA/AA比はSA罹患との独立した相関が認められた(オッズ比: 2.06, 95% CI: 1.04-4.11)。結語：PCIを施行したCVD患者において、SA罹患症例は非SA症例と比較してEPA/AA比が低値を示した。